

さいとう淳一郎の日々の街頭演説を、紙上でお伝えしています。

次の世代のために…

“子どもや孫たちが帰ってくるまちづくり”を目指して
栃木県議会議員

さいとう淳一郎街頭演説レター

第 12 号

発行日 平成 24 年 11 月 1 日

発行者 栃木県議会議員

さいとう淳一郎

〒329-2136 矢板市東町 3006-3

県道矢板那須線の整備推進を！

県道矢板那須線は、矢板市から那須町に至る栃木県北部を縦断する重要路線であり、平日は通勤通学、休日には観光地に向かう交通量が増加しています。

このうち矢板市内の整備については、矢板バイパス 1 期工区として、昨年 3 月に川崎小学校前から下太田地内にかけての 3.3 km 区間が開通していますが、境林地内から川崎小学校地内の 2 期工区、900m 区間についても、地元の皆様のご協力をいただいて用地取得が完了したことから、10 月 4 日に工事に関する入札が実施されます。

この矢板バイパス 2 期工区は、宮川に橋をかけるなど大規模な工事になることから完成には複数年を要しますが、「さいとう淳一郎」は引き続き予算確保に努め、バイパスの早期完成を目指していきます。

また、昨年 3 月に開通した 1 期工区沿線は、かつての土地利用調整のまずさから農地転用が難しい農振農用地のままです。そこで大田原市の 3・3・1 号線のような沿線開発が全く期待できません。このままで矢板バイパスが完成すれば、バイパスは完全に「通り過ぎる道」になってしまう一方で、中心市街地は一層寂れてしまいます。そこで「さいとう淳一郎」は、この「矢板バイパス」を「通り過ぎる道」から「立ち寄れる道」にしていくために、引き続き全力を尽くしていきます。

そして県道矢板那須線のうち、矢板市上太田、東泉、泉、田野原地内の整備については、本年 5 月に地元の皆様から要望書が提出されています。

この区間の沿線には人家が貼り付いており、用地取得には多額の用地補償費が必要です。そこで私「さいとう淳一郎」は、工期や予算を考えた場合、歩道整備ではなく、現在の道路の東側にバイパスを整備することについても検討していきたいと考えています。